

らびふプラス

狭心症治療の実力病院 (2011年4月～12年3月に「手術あり」が370例以上)

Table with columns: 病院名, 所在地, 手術あり, 手術なし, 医療機能評価, 施設体制. Lists hospitals across various regions like 北海道, 関東, 中部・東海, 近畿, 中国・四国, 九州・沖縄.

狭心症は心筋に血液を送る冠動脈が詰まったり狭くなったりすることで起きる。日本経済新聞社の実力病院調査によると、細い管を入れて血管を広げる「カテーテル治療」は再発率を低くする機器が普及。難しい病変への技術も向上し、石灰化した血管にレーザーを照射する治療もある。重症患者は外科手術で対応し、リハビリテーションに力を入れる病院が目立った。

狭心症、カテーテルが要

再発率を低くする機器普及 日経実力病院調査



小倉記念病院は多い日に1日10件以上のカテーテル治療をする(北九州市)

血管石灰化にレーザー

9割となり5年前の6割から大幅に向上した。今回の調査でカテーテル治療の症例数が最も多かった千葉西総合病院(千葉市)は、先端にレーザーを照射する治療に力を入れている。高年齢化も進んでいる。高年齢化も進んでいる。高年齢化も進んでいる。

このほか、患部近くまでカテーテルを通して紫外線を照射する「エキシマレーザー」も普及。石灰化と血栓が混在している場合にロータブレーターを用いると血栓を悪化させる恐れがあるため、レーザーで蒸散させる治療法だ。保険適用された昨年7月から今年2月までに、既に40件の治療実績があるという。

調査概要 調査は①治療患者数(診療実績)②治療の質や患者サービス(運営体制)③医療従事者の配置や医療機器などの設備(施設体制)④3つの視点で、病院選びの際に参考となる情報をインターネット上の公開データから抽出して実施した。

治療方針を決める。同手術は狭窄の血管が3本以上ある場合や重症化した場合などで対象になる。副院長で心臓血管外科の高梨秀一郎主任部長は「カテーテル治療を希望する患者は多いが、患者の状態に合った治療を選択することが大事。バイパス手術の方がカテーテル治療より再発率は低い」と話す。緊急でない場合は1カ月以内に手術し、手術後は1週間から10日ほどで退院できる。

来と比べて4割薄くなり、ステントに血が固まりやすくなるリスクを抑えた。薬剤は血管が触れる面に塗るだけでよく、患者の負担も軽くなっている。同病院では複雑な病変でもカテーテル治療を選択するケースが増えている。冠動脈が完全に閉塞した症例は最も難しい治療の一つとされるが、閉塞部位にカテーテルを使って細い針金を通す技術の精度を高めたところ、治療の成功率が8割を越えている。

狭心症の治療後に受けるのが心臓リハビリテーションだ。かつては心臓機能や体力の回復を目指す入院リハビリに重点が置かれていたが、現在は再発予防のための生活指導やカウンセリングを含めた総合的な外来リハビリのプログラムが組まれている。

治療後のリハビリ

国立循環器病研究センター(大阪府吹田市)の心臓リハビリテーション科は医師2人、理学療法士3人、看護師2〜3人の体制で心臓リハビリを発行するための食事指導や禁煙などの生活指導も実施している。榊原記念病院(東京都府中市)は最大酸素摂取量のデータ測定し、心拍数をトレニングする。

食事指導や悩み相談も

1〜2回、課題を指摘している。3カ月続けることで効果が見られる。同センターは循環器病リハビリテーション部の後藤兼一郎部長は「リハビリの有無で3年後の生存率や再発率に20〜30%の差が出る」という欧米のデータがある。

「心臓リハビリ」と説明。「心臓リハビリは社会的認知度がまだ低く、国内には外来で利用できる施設が少ない」といっている。

(注)「大」=大学系病院、「公」=国立病院機構や自治体、赤十字などの公的病院、「法」=医療法人やその他の病院。病院名の「C」はセンター。診療実績は未認可の例。施設体制は①一度に10人以上の患者を受けられる治療室を有している。②一度に10人以上の患者を受けられる治療室を有している。③一度に10人以上の患者を受けられる治療室を有している。④一度に10人以上の患者を受けられる治療室を有している。⑤一度に10人以上の患者を受けられる治療室を有している。⑥一度に10人以上の患者を受けられる治療室を有している。⑦一度に10人以上の患者を受けられる治療室を有している。⑧一度に10人以上の患者を受けられる治療室を有している。⑨一度に10人以上の患者を受けられる治療室を有している。⑩一度に10人以上の患者を受けられる治療室を有している。